

事例 No.	69	人口規模	1万人以上	地域ブロック	近畿	事業タイプ		拠点整備		事業主体	地方公共団体
事業名	地域子育て支援センター事業										
実施地方公共団体名	平群町(奈良県)										
特徴・ポイント	<p>平群町では、「地域で互いに支え合いながら安心して子育てできる町」を目標として関係機関が連携をして推進にあたっている。そのことがセンターの運営にも反映しており、積極的な住民参加を活動のなかで大切に、多くの住民に見える・参加できる・関係できる取組を大切にしている。</p> <p>孤立の子育てにならないように「居場所づくり」を大切にしている子育て中の親の拠点になる取組をしている。「親が自主的な活動を行える」「受け身の活動スタイルを生まない」「自分さがしも手伝う」「遣りたいことができることが行動にうつせる場になる」などを運営のなかに取り入れています。</p>										
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 平群の子どもたちがすこやかに、感性豊かに育つために子育て中のそれぞれの家庭にあわせた支援を提供する。</p> <p>【内容】 ・場の提供(月～土9時～17時) ・相談業務 ・情報の提供 ・子育てサークルの育成支援 ・子育て用品のリサイクルコーナーや貸し出し ・文庫 ・託児サービスの充実 ・住民参加</p>										
導入・実施の背景・経緯(事業の必要性)	平成3年第3次総合計画及び平成9年生涯学習基本構想、平成14年へぐりのびのび子育てプランを受けて同14年にエンゼルプランの中で具体化された。					導入・実施に際して苦労した点					
事業の効果	効果はおおいにある。いまの親世代の課題を一緒に抱える。部局になっていて、子どもの育ちをおおいに支援している。					実施にあたってのネックをどのように解決したか <p>専門職も研修の機会もない状態からの出発で担当者の負担が大きかった。行政として地域の人材との連携は全てが最初からの仕事だった。保育士が担当者になることで子育て支援の具体的な活動はやりやすかったのがよかった。関係機関(健康部門の保健師)との密な連携や保育園、民政児童委員・主任児童委員、更生保護女性会、元園長などとの連携で補えた。</p> <p>ノウハウ面のネック エンゼルプランが具体的に目標を設定している、今ここまでならできるといふ目安がいつもある。</p> <p>最低限の人員の確保だけでも費用がかかり、運営費も地域の事情を踏まえた独自性を発揮すればするほど全国的な補助金の対象要件から外れてしまうため、町の一般財源からの持ち出しになってしまう。 やりくりできる範囲を目標に町で赤字を覚悟での実施</p> <p>保育士なので住民団体やボランティアとの連携や予算などの行政にかかわる事務が難しい 担当課の援助</p>					
事業のアピールをどのように行なったか	・健診での宣伝が一番だった。(相談にも応じられる) ・連携することで様々な年齢や階層に情報が伝わり、情報提供に役立った。										
概算事業費(千円/年度)	16,518千円 <内訳> 都道府県補助金:5,193千円 一般会計:11,305千円 その他:20千円					問い合わせ先		所属部署: 平群町福祉部 健康福祉課児童福祉係 TEL:0745-45-1001 FAX:0745-45-0100			